

ごあいさつ



皆様には、平素より私ども「熊谷商工信用組合（くましん）」に格別のお引き立てを賜り厚く御礼申し上げます。

当組合は、昭和28年に創業し、今年で67年を迎えることができました。これもひとえに地域の皆様のおかげであり重ねて御礼申し上げます。埼玉県北地域のコミュニティバンクとして地域の皆様と共に歩み、今日の経営基盤を築いて参りました。より多くの皆様に当組合の経営内容や営業実績等をご覧頂き、「くましん」をより一層ご理解頂けるよう、今年度もディスクロージャー誌を作成致しました。

令和元年度の我が国経済は、海外経済の減速等を背景に外需が弱いものの、雇用・所得環境の改善等により、内需を中心に緩やかに回復し

ているとされてきました。しかし令和元年12月に中国で発生した新型コロナウイルスは、瞬く間に未曾有のパンデミックを引き起こし世界経済へ大きな打撃を与えました。日本経済も同様に新型コロナウイルス感染拡大防止に伴う企業の営業自粛などの影響で、個人消費や生産、輸出などが悪化しました。政府は4月7日に緊急事態宣言を発令し感染拡大防止を図るとともに雇用の維持と事業の継続の為、100兆円規模の経済対策を実施。景気回復を目指すも、景気の不透明感はぬぐえず、更に100兆円を超える追加経済対策の実施を予定しているところであります。

今がくましんの存在意義を問われる重要な局面です。この未曾有の危機に地域金融機関として汗をかくことが我々の使命であると考え、全役職員が一丸となり地元企業の皆さんの資金繰りのご支援に全力で取り組んでまいります。

令和元年度決算につきましては、貸出金期中平均残高が1,398百万円増加したものの、市場金利の低下により貸出金利回りが低下し、貸出金利息収入は前期比37百万円減の1,017百万円となりました。一方、預け金利息、有価証券利息配当金は合計で前期比26百万円増加の370百万円となりましたが、金融機関本来の収益力を表すコア業務純益は貸出金利息収入の減少が影響し前期比13百万円減少の92百万円となりました。当期純利益につきましても、前期比19百万円減少の117百万円となりましたが、収益の確保が厳しい環境下の中、目標以上の利益確保をすることができました。令和2年度も新型コロナウイルスの影響もあり、金融環境は更に厳しいものになると予想しておりますが、「地域経済への貢献」「お客様第一主義」「健全にして堅実な経営」「役職員の生活向上」を経営理念として役職員全員が同じベクトルで進んで参ります。引続きのご愛顧ご支援を賜りますようお願い申し上げます。

令和2年7月

熊谷商工信用組合 理事長 **吉田 豊**